

新たなごみ処理施設等建設検討委員会での主な協議の経過報告

1 第1回建設検討委員会資料の抜粋

【施設整備の基本理念】

地球に優しい「循環型社会」、「脱炭素社会」を目指し、
市民町民に親しまれる施設づくりを進めます

キーワード:地球に優しい、循環型社会、脱炭素化の推進(ゼロカーボン)、地域住民等の理解と協力・
参画の確保



施設整備の基本方針

方針 1	<p>周辺環境に配慮し、安全・安心で安定した施設</p> <p>キーワード:安定的、安全安心な環境、ごみの適正処理</p>
方針 2	<p>限りある資源やエネルギーの有効活用を図り、地球に優しい施設</p> <p>キーワード:資源循環、4R の推進、地球に優しい、脱炭素化の推進、環境負荷の低減(軽減)、リサイクルの推進、地域に多面的価値</p>
方針 3	<p>災害に対して強く、地域の拠点となる施設</p> <p>キーワード:災害時も含めた持続可能な、施設のレジリエンス(復元力・回復力)、災害時の廃棄物への対応、地域に多面的価値</p>
方針 4	<p>経済性と効率性を勘案した施設</p> <p>キーワード:費用負担軽減、効率的、持続可能な廃棄物の適正処理</p>
方針 5	<p>環境学習の場として、市民町民に開かれた施設</p> <p>キーワード:環境学習の推進、ごみの発生抑制、ごみの減量化地域に多面的価値、地域住民等の理解と協力・参画の確保</p>

2 第5回建設検討委員会資料の抜粋

表 1 各施設の年間必要処理量及び施設規模

種別	施設名	年間必要処理量	施設規模 (保管面積)
見直し	可燃ごみ処理施設	42,680 t/年 [※]	147 t/日
	粗大・不燃ごみ処理施設	3,370 t/年	16.5 t/日
設定	プラスチック類処理施設	4,344 t/年	20.8 t/日
	ストックヤード(有害ごみ等)	44 t/年	700 m ²
	剪定枝処理施設	850 t/年	4.1 t/日

※災害廃棄物処理量として令和 14 年度の計画ごみ処理量(38,800t/年)の 10%を含む。

3 第3回地元協議会資料の再掲（一部抜粋）

項目	設置者	【参考】 法令等基準値	埼玉中部 環境保全組合
施設規模 [t/日]		—	167
処理方式		—	未定
竣工年度		—	2032年度予定
ばいじん [g/m ³ N]		0.04 ^{※1}	0.01
硫黄酸化物 [ppm] (K値)		約5,000^{※2} K値規制以下	20 (17.5)
窒素酸化物 [ppm]		180	50
塩化水素 [ppm]		123	20
ダイオキシン類 [ng-TEQ/m ³ N]		0.1 ^{※1}	0.01
水銀 [μg/m ³ N]		30	30
一酸化炭素(CO) (1時間平均) [ppm]		100	100

※ 排ガスに係る基準値は、酸素濃度12%換算値 ※1 焼却能力4t/時・1炉以上

※2 現施設と同じ設計値（有効煙突高59m、最大乾き排ガス量16,890m³/h）と仮定した場合の数値